

# 新婦人しんぶん

## 新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

## 今週の紙面

- 2面 女性ニュース/要請
- 3面 読者のページ/まんが/俳句
- 4面 婦人保護/あの頃/やる気あり美/アメリカから
- 5面 ジェンダー視点で憲法を/ホット
- 6面 プラごみ削減、私の場合/もう一品/母の歴史
- 7面 新婦人のページ/主張/40代の体



新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

# 記憶をなくしても

## その人らしさはなくならな

家族が認知症と診断され、症状がすすんだらどう接すればいいか。脳科学者の恩蔵絢子さんは、認知症になった母とともに暮らす中で、その人らしさとは何かを考えてきました。「記憶をなくしても、その人らしさは失われない」と話します。

### 認めることでホッとした

「お母さんに認知症の兆候が出た時、どんな気持ちでしたか」

「2015年1月には兆候が出始めていたのですが、病院に行ったのはその年の秋でした。その間、周りにいる友だちに「ねえ、どう思う?」と毎日、母に起こったことを相談していました。」

その頃母は、料理がつかなくなりました。また、私は大学で授業をもっているのですが、娘である私に「何の仕事をしているの?」と何度も聞くのです。そのたびにいちから説明しなければならなくて、私も大声を出してしまふことがあって。母はだんだん、青い顔をして、ぼんやりとソファに座っているようになりました。決定的だった

おんぞうあやこ 脳科学者。専門は自意識と感情。07年、東京工業大学大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻博士課程修了(学術博士)。金城学院大/早稲田大/日本女子大非常勤講師。著書に『化粧する脳』(茂木健一郎共著・集英社新書)

### 記憶は海馬だけではない

「認知症を脳から見ると、どっという状態なのでしょう」

「アルツハイマー型認知症は、脳の記憶を司る部位である海馬が萎縮する」

「しかし、科学者として改めて考えたとき、なぜ海馬の変化だけで、その人かどうかを判断するのだろうか?という疑問がわきました。記憶する部位は、海馬だけではなく、さまざまなところがあるのが、繰り返し同じ話をする、何かをしていて、何をしようとしたか分からなくなるなどですね。私の母もその

す。音楽短大を出て、楽譜を初見で見て弾いていた母が。これはもう、疑いようがないなど、病院に行きました。脳の写真を見て、診断を聞いてやっと「ああそうか、アルツハイマー型認知症か」と。もう、ごまかさなくていいんだとホッとして。同時に、そこでやっと認知症の母を、脳科学者としてみてみようという気になったのです。

「記憶がなくなっても、全て失うわけではないのです」

人間は、脳が萎縮したとしてもなお、残っている部位を使って、生き抜くために自分を守り、適応しようとしています。記憶することも、自分であるうとすることも、放棄するわけではないのです。認知症の人が作り話をしたり、昔の家をさがしに出ていこうとすることがありますが、それは欠けた記憶を補い、自分の自尊心を守ろうとする、最大限の対処方法だと思われまます。

私の仕事について何度も聞いてきましたが、2年経った頃には「頑張ってるね」と送り出してくれるようになりました。また、毎日父や私と行く散歩では「あっちの道を通ってみましょう」「ここを曲がると神社なの」と、楽しそうに主導権を握ります。

### 感情は言葉の前にある

「その人らしさとして何が残るのでしょうか」

「認知症の人は、自分でしたことの記憶がうまくつかれなくなると、間違ったことをすることがあります。しかし、他者の反応を気にすること(社会的感受性)は変わらないので、周りの「え?」という顔に敏感

に反応します。何か自分はおかしなことをしている、というのをはわかっていて、傷ついた感情として残っていくのです。人にとって感情は、知性と同じくらい大事なものです。どんなにIQが高くても、感情のシステムが損傷すると何かを選び取ることができなくなる。」



脳科学者 おんぞうあやこ 恩蔵絢子さん

「脳科学の分野でも、人がその人であることを決めている部位はまだまだわかっていないんです」

脳科学者の母が、認知症になる

「記憶を失った、その人は、その人らしさを失ったのか?」

河出書房新社 1650円(税別)

核や小脳は、鍵をあげる、材料を包丁で切る、自転

8月14日号は休刊です

